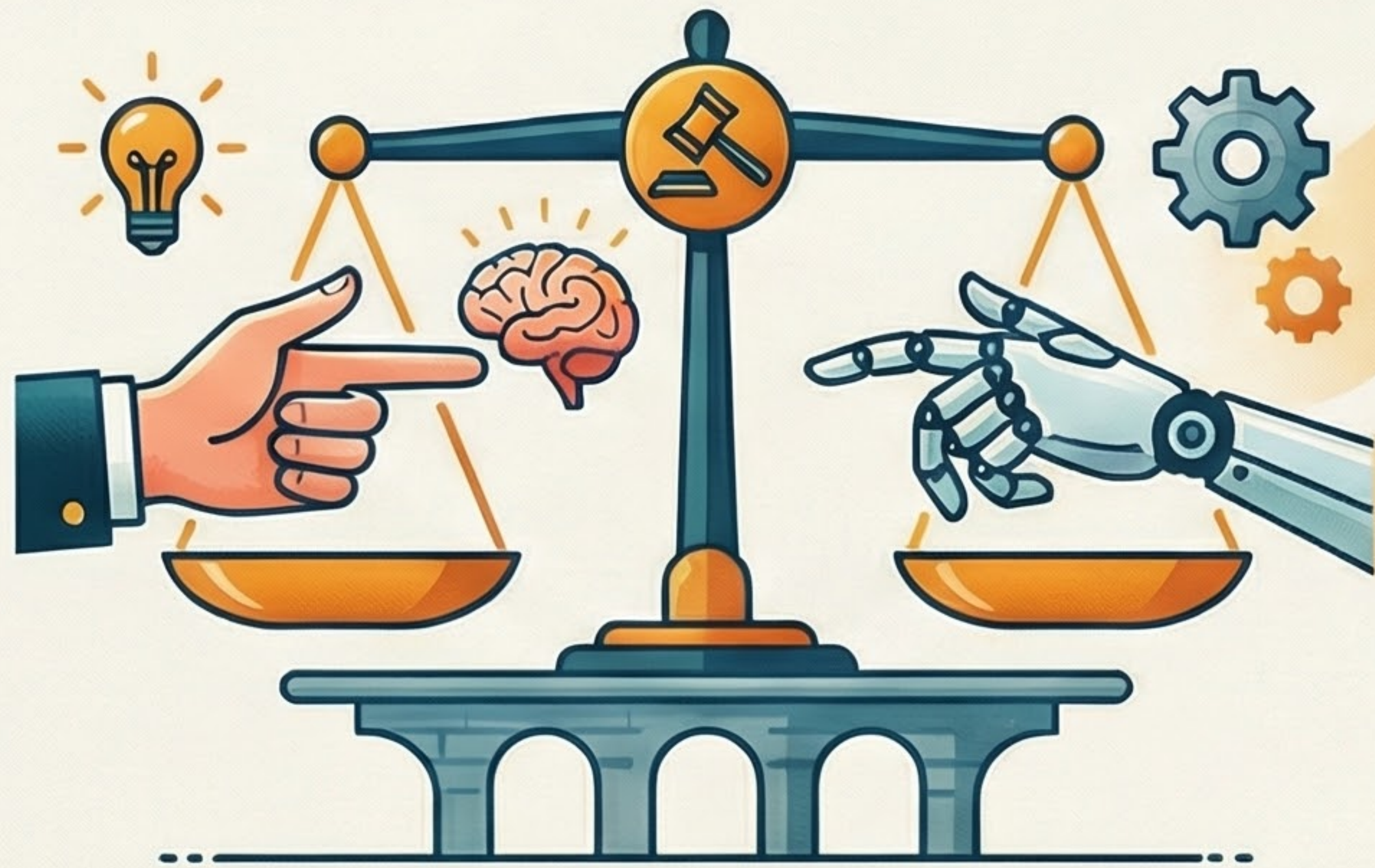


# 韓国のAI×知財：最新動向レポート

韓国では生成AIの普及に対応するため、知的財産制度の整備が急ピッチで進められています。現行法では「人間の創作」を原則としつつも、AI開発を促進し実務利用のリスクを管理するための新たなガイドライン策定や法改正が計画されています。

## AI創作物と法の原則



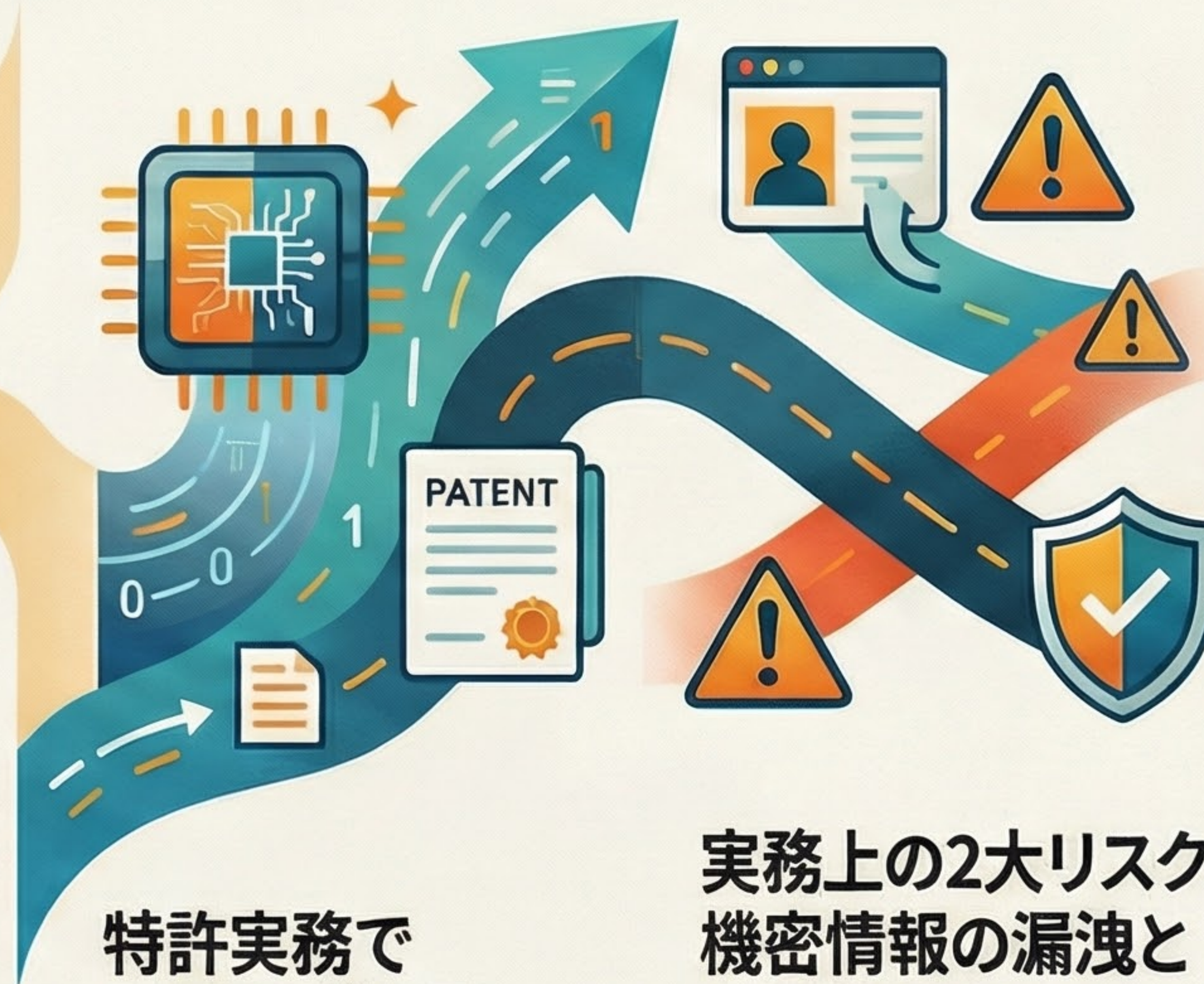
### AI単独の生成物は「著作物」ではない

人間の「創作的寄与」が認められる部分に限り、著作権が保護されます。

### AIは特許の「発明者」にはなれない

DABUS事件に関する裁判で「発明者は自然人のみ」との判断が確定しました。

## AIの実務利用：進展と課題



### 特許実務でAI活用が加速

韓国特許庁自らも、審査業務を支援する「特許専門家AI」を開発中です。

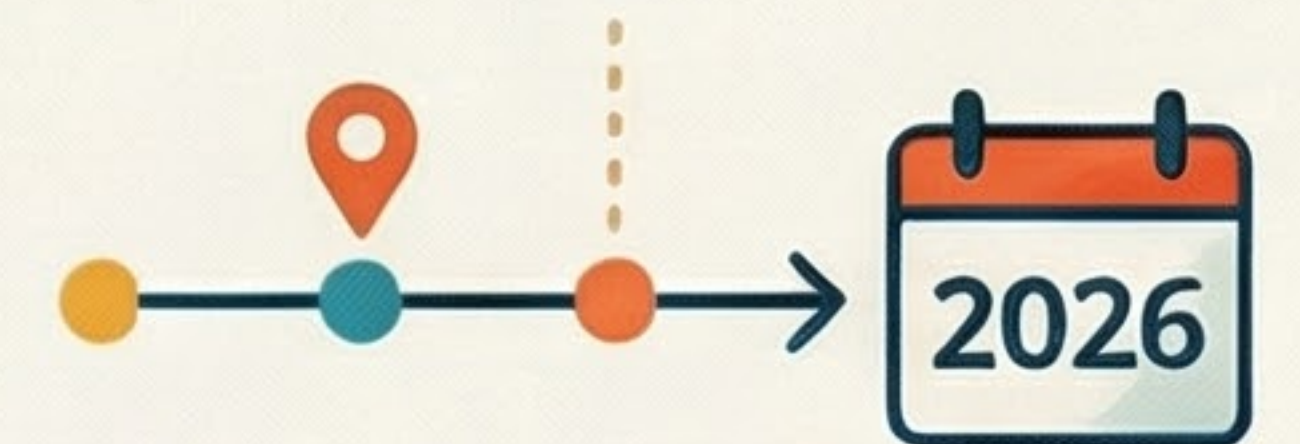
### 実務上の2大リスク：機密情報の漏洩とAIの誤情報

専門家は対策として、厳格な社内ポリシーと「人間のレビュー」が不可欠だと強調しています。

## 今後の政策方針



### AI学習データの著作権ルールを整備へ



2026年上半期までに、AI開発のための法改正も検討されています。